

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番 74	福山市立神辺小学校
最終更新日	2020年(令和2年)4月9日	

### I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

### II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	スキル：知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力 倫理観：思いやり
1 課題を明確にして、改善に取り組んでいくことが大切。 2 体力向上や基本的な挨拶ができるような取組をすすめていくこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着面では、小学校で3教科とも県平均を下回り、中学校では、上回っている。</li> <li>小中共に「言葉遣い」「無言掃除」の肯定的評価が低い。自己指導力の向上を図る必要がある。</li> <li>新体力テストの実施結果において、小学校は県平均を超えた種目率が48%。中学校は48項目中27項目が県平均値かつ全国平均値未満である。</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子 体：健康でねばり強い子
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>廉塾規約を基盤とした神辺小学校「すてきな神辺っ子」、神辺西中「四つの心得」の実施</li> <li>神辺西中学校区授業モデルを基盤とした授業改善の実施</li> <li>神辺西中学校区における「21世紀スキル&amp;倫理観」の評価基準による個に応じた指導の実施</li> </ul>

### III 自校

ミッション
伝統を現在に生かし、未来を生き抜く人を育てる。

学校教育目標
ひとりひとりの命を生かし 育てる教育の実現

現 状
<p>○全国学力テスト児童アンケートでは、国語科算数科ともに、学ぶことへの必要感を感じている児童が90%を超えている。また自分の考えについて根拠を示して、表現しようとしている児童も87%(算数科)に達している。</p> <p>○体育発表会の企画立案を児童の実行委員会が中心となっており、練習も子どもたちが中心となって進めた。音楽朝会などの集会活動においても、児童が中心となって進めている。子どもどうしがつながる力や自分たちで考えて動く力がついてきている。</p> <p>●自分から調べたり、新しいことを考えたりすることに課題があり、児童の興味・関心を起点とした授業及び単元づくりを通して、児童の学びに向かう力を高めていく必要がある。</p> <p>●学びに向かう姿には、個人差があり、児童の発言に対して柔軟に対応し、学びを繋げていく教師のファシリテーター力を高めていく必要がある。</p>

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
めざす子ども像	既習事項と新たな知識・技能を関連付け、今後の学習でも活用できる知識・技能として定着している。	課題解決のために必要な情報を収集し、比較・分類したり関連付けたりして、筋道立てて考えている。	既有的知識と関連させて自ら課題を見付け選択すると共に、学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習や生活に生かそうとしている。

	教科等	国語科・外国語活動
研究	主題・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の学びをデザインできる児童の育成</li> <li>○子どもたちの多様な学びを尊重した授業改善</li> <li>・児童が自分の関心や習得に応じて、課題や学習方法、自分の立場等を選択して取り組む。</li> <li>・活動や話し合いの目的に合わせ、観点や形態を選択し、学習手段を分けたり、混ぜたり、入れ替えたりする。</li> <li>・児童の関心や顔色に応じて、単元内の時数配分を柔軟に調整する。</li> <li>・振り返りシートを活用して、児童自身が学びのプロセスに目を向け、学び方を修正したり、自己の伸びを実感したりする。</li> <li>・1年生は、スタートカリキュラムを実施する。(モジュール、生活科を中心に遊びと関連させた学びの場)</li> <li>・合科などの教科横断的な学びを視野に入れて、カリキュラムを作成・評価・改善する。</li> <li>・「学び」について教職員が対話する機会を設ける。</li> </ul>
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に取り組み、学ぶ楽しさを味わうことのできる授業</li> <li>・身に付けた既習事項を活用して、新たな課題を解決することのできる授業</li> <li>・友達と共に学ぶよさを実感できる授業</li> </ul>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				2月末			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
1	自己の学びを デザインでき る児童の育成 を図る。	★	新規	自己の課題 や目的に応 じて、学び方 を選択する ことができる。  自己の学び のプロセス を振り返り、 次の学びへ の意欲に繋 げることが できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や学び 方を選択でき る場を設け る。</li> <li>・単元の終末 では、学習前 の自己と比較 させ、伸びを 実感させる。</li> <li>・個人の伸び を評価するた めの教師の評 価力の向上を 図る。</li> </ul>	・「自分で課題 や学び方を選 択して学びを 進められてい る」児童の割 合を80%以上 にする。 ・「学習を通し て、自分を伸ば すことができ ている」と感じ る児童の割合 を80%以上 にする。 ・学期に2回以 上、教職員で 「児童の何を どのように見 取るか」につ いて交流・協 議する。								
				自分や友達 のためにな ることを考 えて実行で きる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に関わ る目標を毎週 設定し、振り 返ること、で きた自分に 気づかせる。</li> <li>・委員長を代 表委員会に召 集し、組織的 な動きを図 るとともに、朝 会で、児童が 活躍する機 会を増やす。</li> <li>・児童会発案 によるいいと ころ見つけを 実施し、児童 の自己肯定感 育成を図る。</li> </ul>	・自分や友達 のためになる ことを考えて 実行できる 児童を75%に する。 ・ポートフォ リオに、自分 の成長を感じ るものを貯め ていき、自己 肯定感を高め ていく。								

1	自己の学びをデザインできる児童の育成を図る。	新規	<p>体力に関わった自己課題を捉えて目標を設定し、目標に向けて取り組み、改善、修正を行うことができる。</p> <p>・体力向上にかかわる目標を週初めに設定し、1週間取り組み、週末に振り返りをするというサイクルを継続する。</p> <p>・児童の運動に親しもうという態度を育てる。</p>	<p>「自己課題に合った目標・取組を設定することができ」、「取り組みが継続できる」、「取組を振り返り、次の目標設定に生かすことができる」児童の割合を80%以上にする。</p> <p>・体育委員会等の児童による発案の体育的イベントを学期に1回以上実施する。</p>											
1	児童の教育環境をデザインする取り組みを推進する	継続	<p>小中一貫教育の推進を図り、その取組を検証し、情報発信する。</p>	<p>・小中合同研修会を年間2回以上企画・運営し、小中連携を図る。</p> <p>・神辺西中学校区小中一貫教育の組織を機能化させ、合同研修に向けた各部の主任・主事による連携を年間3回以上行う。</p>											
		継続	<p>教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図る。</p>	<p>・超過勤務45時間以内を目指し、教職員一人一人が超過勤務時間の自己管理を行っていく。</p> <p>・超過勤務45時間以内の教職員の達成割合を100%にする。</p>											

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。